

議事概要「多度津町自分ごと化会議_第一回」

日時／場所	2024/7/6（土）13:00~16:00 多度津町地域交流センター 2 階ホール
参加者	委員（住民）31 名
出席者	多度津町：丸尾町長、松浦高齢者保険課長、真鍋高齢者係長、吉田政策観光課長、 合田政策企画係長、坂本主事 （株）パブリックテクノロジーズ：中田 （一社）構想日本：小瀬村、瀧口、高橋
オブザーバー	多度津町社会福祉協議会 尾崎氏 有限会社多度津タクシー 松岡氏

「これからの多度津の地域交通」を考えるための自分ごと化会議の第 1 回目のレポートです。今回、住民基本台帳から無作為抽出によって多度津町民約 800 名にご案内を送付したところ、35 名もの方に参加を表明いただくことができました。多度津町では、案内を送付した方の内、約 4%ものみなさんにご参加の意思をいただくことができ、町民のみなさんの関心の高さを大変ありがたく感じております。

想定より多くの皆様のご参加となったため、2 つの班に分かれて議論を進めることとなりました。初回となった 7/6 は、町長のご挨拶・趣旨説明に始まり、多度津町の移動に関する支援事業等を知っていただく場として多度津町からご説明をさせていただき、その後、班に分かれて自己紹介等を行いました。

サマリー

- ✓ 全 4 回の会議を通して「これからの多度津の地域交通」について議論し、提案書にまとめる。
- ✓ 多度津町では地域交通の提供は行っておらず、高齢者福祉施策として移動支援事業等を実施している。
- ✓ 公共交通を取り巻く課題、人口減少、財政課題があり、行政だけのまちづくりは困難である。

事業説明

町長ご挨拶

- ・ 高齢化の進行や運転免許自主返納者の増加などの影響から、新たな地域交通が必要であるとのお声を多くいただいている。
- ・ 住民の皆様と町の現状を共有させていただくとともに、日常生活の中で感じられている地域交通に対する課題や地域交通に対してどのような思い・お考えを抱かれているのかお聞きしたいという思いから本会議を開催する。
- ・ 全 4 回の議論を通じて本町に「地域交通に対する提案書」を作成・提出いただく。それをもとに来年度以降、町として地域交通の取組を進めていきたい。

本事業の座組

- ・ 株式会社パブリックテクノロジー（以下「パブテク」）及び一般社団法人構想日本（以下「構想日本」）が本会議の共催団体である。
- ・ 昨年度より、多度津町の地域交通をテーマとした人材育成事業を実施している。昨年度は、行政職員を対象に事業シートを作成し、町民を巻き込んで議論していく準備を行ってきた。
- ・ 本年度は、昨年度に人材育成を行った町職員を中心に、町民と協働でこれからの地域の公共交通について考える住民会議「自分ごと化会議」を開催する。
- ・ 自分ごと化会議の進行役を構想日本が行い、地域交通に関する情報提供をパブテクが行う。

多度津町の現状説明

- ・ 現状、行政として地域交通の提供は実施しておらず、高齢者福祉施策として移動支援等を行っている。
- ・ 「高齢者福祉タクシー事業」「買い物ツアー事業」と、民間ボランティアの方々が実施する「チョイ来た」への支援という3つの事業を本日は説明させていただく。
- ・ 自分ごと化会議を実施し、現状把握を行った上で、来年度からは実証実験等の具体的な事業を実施していきたい。
- ・ 人口減少などによる利用者減、運転士の担い手不足、自動運転など公共交通をめぐる全国的な状況の変化や多度津町の高齢化・外国人人口増加、また財政状況の課題なども検討する上で重要になる。
- ・ 行政のみでまちづくりを行うのは困難であり、住民の皆様と協働することが重要になる。

自己紹介

1 班（進行役：小瀬村）

- ・ 地域交通には困っていない。自分は車に乗るし、親・子供は自転車を使っている。タクシーはたまに使うが、病院にもバスで行っている。
- ・ 住んでいる地区に店舗が全くなく、免許返納後にどう移動するか、心配している。
- ・ 住んでいる地区が廃れてきており、今は困っていないが「要介護」等になったらどうするかを心配している。町全体として、ここで何とかしないと、歯止めが効かない状態になると認識している。
- ・ 一昨年、チョイ来た事業のドライバーを依頼されたが、自分自身にも心配があり参加を取りやめた。
- ・ タクシーチケット事業、行き先に限定がないのは評価できる。一方、車のある方は全く使わない。75歳に一律配布でなく、対象者の制度を変えて、必要な人により多く届けるような仕組みがいいのではないか。
- ・ 自分自身は困っていないが、父が81歳・母が認知症という状況。自身もまだ働きたいと思っている。
- ・ タクシーチケットは親が認知症だと使えなかった。なので使わず、自分で送迎していた。
- ・ お友達も使っていないと言っていた。みんなどのように使っているのか？
- ・ 免許返納した瞬間に、家から出られなくなってしまう。介護予防の観点からも、非常によくないこと。
- ・ 交通手段としては、オンデマンドバスのようなネット予約制は難しいなという考えはある。行きたい時に行きたい場所へ行きたい。
- ・ 免許返納後など、今後の交通手段を非常に心配している。

- ・ 両親が気軽に移動できて、買い物や地域活動に参加できると、非常に楽しい生活が送れるのではないかと考えている。
- ・ 月に 2-3 回、東京に行っている。東京の交通網を多度津で実現するのは難しい。
- ・ タクシーチケットは全然足りていない。病院に一度行くと、なくなってしまう。
- ・ 多度津はコミュニティバスがない。バスを走らせて欲しい。バス停をきちんと作って欲しい。
- ・ このような機会をいただいて、非常に楽しみにしていた。
- ・ タクシーチケットは余っている。もっと皆が使える仕組みを作れないのか。

2 班（進行役：瀧口）

- ・ 生まれ育った多度津のために何かできればという思い。自身はマイカー移動で特に不便は感じていないが、ゴミ出しや通院など自分の力でできないことが増えていくのではないかと心配がある
- ・ マイカーが無く不便な思いをしている（免許は持っているが車が無い）。チョイ来たは良いと思う。西白方の海岸沿いは食料品店もないし食事店もない。
- ・ 70 年以上多度津に住んでいる。JR やバスの衰退を見てきたためさみしい気持ちがある。
- ・ 今はマイカー移動だがいずれ返納した時のことを思っ参加。高齢のおばあちゃんがあり、タクシーチケットをもらっている。自身が元気なうちは送り迎えできるがいずれはタクシーチケットを使うようになると思っている
- ・ 駅の無人化やコンパクト化が進められているが、多度津は予讃線と土讃線の交わる場所なので、バリアフリー化を進めてより使いやすい駅になってほしいと思っている。
- ・ いずれ運転できなくなることを見据えて参加。母が今年免許返納予定。
- ・ 自分ごと化会議というものに興味があった。
- ・ 80 歳になったら免許を返納したらどうかという話もあるが、今の状況で車の無い生活は考えられない。
- ・ 周辺の住人が減って地域の役員の担い手が減っている。
- ・ 自分も元気だし親も元気だし、子ども手を離れて困っていることはないが、興味があって参加。
- ・ 東白方地区。不便はないが周辺で交通難民がたくさんいる。妻がチョイ来たに登録している。10 年後には自分も交通難民になると思っ参加。
- ・ 三豊市のコミュニティバスが発達している。スーパーにも 30 分に一本出ていてうらやましいと思う。多度津でもコミュニティバスがほしい。
- ・ 奥白方地区は 200 世帯くらいの地区で高齢化が進み、村の祭りも縮小が続いている。近所には認知症の方もおられる。自分の移動手段も今後考えないといけない。
- ・ 写真を撮りたい、ゴルフをしたい。そのために車の運転をしたい。

事業レビュー

事業の内容については別紙参照。以下は質疑応答の議事。

高齢者福祉タクシー事業

Q. 小瀬村）実際誰がどのくらい使っているのか？

➤ A. 町) 受け取った方が7割、5割程度の方は使っているという状況。

Q. 小瀬村) 使わない方の理由は？

➤ A. 町) 自分が運転できるから。という理由が一番多かった。

Q. 小瀬村) 金額が不足している方はどうしているのか？

➤ A. 町) 話を聞く限りでは、町外の病院に通う方からは足りていないという声がある。一方、自分で運転できる方からは、必要ないので商品券にして欲しい。などの声もある。

Q. 委員) 使われなかったチケットは、予算執行なしで終わるのか？

➤ A. 町) その通り。

Q. 委員) 町に存在する移動手段を一通り教えてほしい。

➤ A. 町) 行政として提供している交通がないのが現状。JR(鉄道)・タクシー・フェリーに加えて、本日紹介する高齢者福祉施策の事業等がある。

Q. 委員) 受け取られなかったチケットを有効に使うという意味では、残りの3割を配布できないのか？

➤ A. 小瀬村) 公平性の観点から、なかなか難しい点もある。そういった意見はどんどん出してほしい。

Q. 委員) 事業全体の予算はどれくらいなのか。

➤ A. 町) 70万円程度が必ず発生する予算。1,720万円程度が利用率によって変動する予算。

Q. 委員) 全ての対象者が利用すると、どれくらい予算が必要なのか。

➤ A. 町) 令和5年度では4,000人程度が対象のため、全員が使うと×1万円で4,000万円程度が必要となる。町としては4割から5割の利用を見込んで予算化している。

Q. 委員) 申請式とするのではなく、全ての人に配れないのか。

➤ A. 小瀬村) そういった意見を沢山いただきたい。

チョイ来た事業

- ・ QA.は特になし。
- ・ 小瀬村) タクシーチケット事業と比べて、1人あたりの予算額／対象者登録者など、性質が全く異なる。まずは「こういった事業なんだ」という観点でご理解をいただければ。

高齢者買い物ツアー事業

Q. 小瀬村) 月平均の利用者数が記載されているが、同じ方がよく使っているのか。

➤ A. 社協) 同じ方の利用が多い。

Q. 委員) このバスの空き時間を使って、オンデマンドバスのようなものに移行していけないのか。全部まとめて1つにしていけないのか。

➤ A. 小瀬村) 今回全4回で、そのような議論をしていきたい。

民間の取り組み

- ・ QA.は特になし

全体

Q. 委員) タクシー事業について今は窓口申請をせねばならない。ネット申請や郵便申請の改善をできないのか。個人が特定されていれば、チケット制にしなくてもいいんじゃないか。マイナンバーカードを使うとか。人それぞれのニーズが違う。条件も違う。画一的にこれをやれば済むという手は取れないはず。ただ1つの方策として、チョイ来た事業を自治体主導として、全域的に広げられないか。

- A. 小瀬村) 他地域の先進事例も参考にしながら、取り組みを検討していけると良い。
- A. 多度津タクシー) 9台中7台は、キャッシュレス決済に対応している。